

友好町村の琴丘町と交流 海草料理に真剣なまなざし

地球村ミセス講座は、一月十五日、村（深渡宏村長）と村教育委員会（沼田英雄教育長）、村婦人団体連絡協議会（佐藤ツネ会長、会員二百六十五人）が主催。北緯四〇度友好町村で交流している秋田県琴丘町の婦人団体連絡協議会（代表高橋テイ子会長）の方々二十人を招いて、自然休養村管理センターを主会場に交流会が行われました。



ワカメの混ぜご飯の作り方を指導する太田名部婦人部の野崎才子さん(中央)

講演会では、村教育委員会の沼田英雄教育長が「家庭のあるべき姿を求めて」と題して講演、「明るい家庭こそが本来のあるべき姿」それは「帰りたい場所であればならぬ」と力説、「泣いても人生、笑っても人生、朗らかに明るく暮らしましょう」と結びました。特産品を使った料理教室（ふだい風すき昆布の調理方法）は、村婦人団体の照井トミさんから五人が、コンブの煮物やワカメの混ぜご飯の作り方を指導。海のミネラルを多く含んだ海草料理に、琴丘町の高橋会長らは笑みを交わしながら、おいしそうに試食していました。

交換交流会は、国民宿舎くろさき荘に場所を移して行われ、参加者たちはお互いに情報を交換しながら、和やかな雰囲気での村の幸に舌鼓を打ち、舞台で披露される踊りや歌を楽しみ親睦を深めました。

秋田県琴丘町とは友好町村として、昭和六十年から交流が行われています。地球村ミセス講座は今回で三回目の交流となります。

ラブ地球村グローアップ事業研修報告会

「心弾ませ」体験をありがとう

十二月十八日、ラブ地球村グローアップ事業の研修報告会は役場大会議室を会場に、教育関係者や保護者ら約三十人が出席して行われました。

村の次代を担う小、中学生を広く国内外に派遣しさまざまな文化、歴史、産業、風土などに直接触れてもらい心豊かに創造性に満ちた人材育成を目的とした「ラブ地球村グローアップ事業」は平成二年から実施され、今年で十三回目になります。



研修報告をする6人の児童・生徒たち

の約二週間、アメリカのアラバマ州で行われ、普代中学校二年の太田千尋さん、新屋沙織さん、高屋敷結さん、道上綾乃さんの四人が研修生として参加しました。

六人は、それぞれがともに「有意義で貴重な体験をいただきありがとうございます」と、心を弾ませながら感謝を込めて報告。同事業推進委員長の坂下洋一助役は、「異文化に触れ学んだことを生かし、村のリーダーとして活躍してください」とあいさつ。

海洋体験学習には、B&G「海洋体験セミナー」として、掘内小学校五年の前川亜由美さんと普代小学校五年の熊谷隆志君が、八月三日から一週間の日程で沖縄県に派遣研修しました。

中学生の国際交流研修は、七月二十九日から八月十日まで

素晴らしい体験をしてきたと思います」と、期待を示し「貴重な経験を皆さんと共有するたぬ仲間に入れてやってほしい」と講評しました。

前川さんら六人は、次々に写真で研修を振り返りながら、実り多かった体験談を発表していました。

普代中学校神楽同好会 華添えて舞い納め

普代中学校（寺林拓也校長、生徒百二十人）の生徒有志でつくる神楽同好会（山本一成会長、会員十七人）は、一月十七日、本年度の舞い納めを兼ね村特別養護老人ホーム（野崎貞信施設長、入所者五十人）で同会

第1回臨時議会
(1/20)
**森林整備の支援交付金
百四十六万八千円計上**

▽一般会計補正予算
補正額百四十六万八千円を追加し、歳入歳出（収入・支出）の予算総額を二十七億三千九百六十六万六千円にしました。

歳入の主なもの、県支出金で森林整備地域活動支援交付金百十万円を増額しています。

歳出は、農林水産業費で森林整備地域活動支援交付金に百四十六万八千円を増額しました。